



9月15日(水)「フェアプレイとは何か」

「オリンピック・パラリンピック学習読本 中学校編」

東京オリンピック男子走り高跳び決勝で、ムズエスタ・バルシム(カタル)とジャンマルコ・タンベリ(イタリア)は2メートル37まで、ともに1回で成功。2メートル39は3回とも失敗し、記録、試技の失敗内容が全く同じでした。当然、ジャンプオフによる優勝決定戦かと思いきや、2人は審判に競技終了を提案しました。認められて、2人の金メダリストが誕生しました。ルールでは「競技者がこれ以上跳躍しないと決めた場合を含みジャンプオフが実施されない場合、同成績により第1位となる」と定められています。金メダルを分かち合うことが決まった瞬間、2人は抱き合って喜びを共有しました。試合後、ジャンプオフを行わなかった理由について、バルシムは「それは歴史だ。」と語りました。ここ数年、2人はけがで苦しい時期を過ごしました。それでも懸命に調整して東京五輪に体調を合わせてきました。「バルシムでなかったら、金メダルを共有することはなかっただろう。」とタンベリ。国際大会でのしのぎを削り、同じような苦境を味わった「友」だからこそ誕生した2人の金メダリストでした。バルシムは「スポーツマンシップであり、これが私たちが若い世代に届けるメッセージだ。」とコメントしました。

みんなの感想

1年生

- お互いが頑張り、怪我をしても東京五輪へ行くために努力した結果であり、そんな2人であったから、金メダルを共有できたのかなと思ひ、まさにフェアプレイだと思います。
- 決着するまで、私もしてしまいそうですが、自分と同じように苦境を乗り越えて頑張っている2人の、お互いがお互いを支えているようなところは、すごくお手本にしたいと思います。
- 正々堂々と戦い、競技が終わると互いを称え合い、認め合うところがすごいなと思いました。私も日常生活の中でフェアプレイの精神を持って行動できるようになりたいです。
- 2人はジャンプオフを選ばず、同成績で1位を選んだ理由は、いつもなら1人が1位だけど、2人が1位だとその分の喜びが分かち合えるからしたのかなと思った。僕もフェアプレイについて詳しくなって、フェアプレイ精神を忘れずにスポーツをしていきたいです。
- オリンピックは自分のことだけではなく、まわりの人と認め合ってこそ成立するスポーツなんだと感じました。走り高跳びの2人の選手の方は順位を決めず、2人で金メダルという素晴らしい結果を残して、フェアプレイが成立していて見ていてとても感動しました。
- それぞれがお互いのことを思いやって、認められる関係がとてもすごいと思いました。フェアプレイが可能なルールがあるということにもすごいなと思いました。

2年生

- ジャンプオフを行わず、同じ苦しい時期を過ごした者同士で、互いの努力を認め合うところがとてもかっこいいと思いました。
- スポーツは勝敗だけが目的ではなく、勝っても、負けてもお互いを認め合い称え合うのもスポーツの1つだなと思ひ、とても良い考え方だなと思いました。
- どちらの選手も出場するその瞬間まで、長い時間をかけて苦勞を続けてきたと思ひます。でも決着を付けず2人ともが金メダルをとるという選択をしたのは、お互いに信頼し合い、理解しあっているからだなと感じました。
- 私はスポーツには「勝ち」か「負け」しかないと考えていました。でも、それは間違いだと気づかされました。バルシムさんとタンベリさんは互いを認め合い、2人で勝ったんだなと思ひました。私も勝ち負けにこだわりすぎず、最後に笑えるような姿勢で何事にも取り組んでいこうと思ひました。
- スポーツでは、つい勝ちたい思ひでプレイしがちですが、その思ひよりもフェアプレイは大切だと思ひました。
- オリンピックで抜けがけせず、互いに認め合うことで、金メダルを共有することを決めた2人はすごいと思ひました。友情だけではなく、1人の人間性としても輝いていると思ひました。フェアプレイの精神は、競技者だけではなく、観客も考えるべきだなと思ひました。

3年生

- スポーツのフェアプレイの精神は、本当にすごいと思ひました。2人の金メダリストも互いに認め合い、そのような決断をしたのは、とても難しいことだけど、すごい決断だなと感じました。
- お互いを共有し合い、金メダルをとったのが素晴らしいと思ひました。スポーツは勝敗だけでなく、お互いを共有する大切さもあるんだなと思ひたので、自分も勝敗だけでスポーツをしない。
- 金メダルを分け合うことは、他の人と同じ順位になるということ。それが3位や4位ならまだしも、1位の金メダルを分け合うなんてすごいなと思ひました。何年も頑張ってきたの優勝なのに私ならできないと思ひます。スポーツをするうえで、競走も大事だけど、ともに喜んだり泣いたりすることの方が、スポーツの本当の楽しさだと思ひました。
- なかなか2人が1位になることはないと思ひし、金メダルが取れるということは、本当に努力しないとできないことで、さらに2人は怪我をしていて、五輪前はとても大変だったんだろうなと感じました。同じ苦しい道を通ってきたそれでも諦めず努力してきた2人の結果が出たんだと思ひます。やっぱり本当に「努力は報われる」だなと思ひました。
- 決着をつけるのではなく、金メダルを共有するのはカッコイイと思ひました。同じような苦境を味わった「友」だからこそという言葉に感動しました。
- 1人ではなく、2人で優勝するのは、すごく新しいことだなと感じました。そして2人はお互いの苦勞をしっかり理解していて、すごく優しい人たちだなと思ひました。

きりとり

この通信をご覧になったの感想などを気軽にお書き下さい。返信欄は切り取ってお子様を通じて担任まで提出して下さい。ご協力お願いいたします。